こどものせかいだって、すっごく密なので。

「青春って、すごく密なので。」夏の甲子園、優勝を果たした仙台育英高校の監督の言葉が、一時大きな話題となりました。コロナ禍で、あれもダメ！これもダメ！の制限だらけの中で、我慢し続けながら決してあきらめなかった3年生に向けられたこの一言に、胸が熱くなったのをおぼえています。

この3月に卒園を迎える年長さんもまた、コロナ禍で始まった幼稚園生活でした。昨年、行動制限が緩和されたことを契機にできなかったあれこれを形を変えながらも再開することがかい、空白を埋めるかのような駆け足の1年間でしたが、改めて感じたことは、「こどもの世界こそが、密でなければならない」ということです。こども同士、あるいは先生とこどもとの距離は遠くあってはならない、温かくやわらかなその子を抱きしめ、ほのかなその子のにおいを感じる距離感で、寄り添いながら私たち保育者は保育者であることの意味を見出しているのです。

幼稚園のシンボルツリー「白木蓮」が、間もなく満開を迎えようとしています。年々春の訪れが早まって、入園式の象徴だった桜は、卒園式にこそふさわしい花としての位置づけになりそうな。。

今年度も、保護者の皆様のご理解とご協力のお陰で、つつがなく修了を迎える運びとなりました。
本当にありがとうございました。

1＋1＝

早春のさんぽ道ー
私が道々歩きながら編んでいた
小さなリースを
あかねちゃんが欲しがって
あかねちゃんが
道々歩きながら摘んでいた
一輪のタンポポを
そこに合わせてみたら
二人とも
幸せに包まれました